Online edition: ISSN 2187-7629 / Print edition: ISSN 2187-7610

号外 広報いこま版

仏女新聞

仏女新聞社 飯島可琳

生駒山のふもとにある生駒市は花崗岩などの固い石を使った石仏がたくさんある。普段通っている道ばたにも仏様がいるかもしれない。

今月のおすすめは

① 石仏寺

② びっくり！生駒の伝説

石仏寺

石仏寺は南生駒から暗峠の方に生駒山を少し登ったところにある。石仏と言えば、道ばたにひっそりといるイメージがある。しかし石仏寺の阿弥陀三尊はとても大きく、鎌倉時代に造られてから七百年以上、お堂の外へ出たことがないそうだ。阿弥陀如来、脇侍（きょうじ）の観音菩薩と勢至菩薩（せいしぼさつ）、皆しあわせそうなお顔だ。見ているだけでもしあわせな気分になるような気がする。

阿弥陀様は何か少し話したいことがあるかのように口を少し開いている。固い石で作られた仏像がやわらかくあたたかく見えるのは、私たちが普段から石に慣れ親しんでいるからかもしれない。「道に転がっている石の中にも仏がいる」という仏師からのメッセージも込められているかもしれない。

東大寺南大門の仁王像の後ろ側に、それぞれ一体ずつの石造の獅子がいる。宋から来てこの獅子の石像を作った工人・伊行末の子孫の伊行氏（いのゆきうじ）が石仏寺のご本尊を作ったと光背に彫られている。

びっくり！生駒の伝説

石仏寺のご住職から聞いたお話だ。生駒山にあった大きな石の半分は仏として彫られ、残りの半分が山に残されたという伝説があるらしい。山に残された石はもう半分を思って泣いているという。別れた半分が石仏寺のご本尊だ。生駒山には大きな石がたくさんあるので、石仏寺のご本尊の分身を見つけることができるかもしれない。

大阪から伊勢まで続く街道の途中にに暗峠がある。暗峠には石のお地蔵様がたくさんあるが、弘法大師像は珍しい。靴をそろえて脱いであるところがかわいらしい。暗峠の石仏や石像は、昔から伊勢まいりの人を見守っている。

仏声人語

石仏も他の仏像と同じく仏の姿をあらわしている。雨や風で彫りが浅くなってしまっていることもある。表情がくっきりと残っているのもいいが、線が途切れてわかりにくくなってしまっていても、私たちはその石仏が作られた時のことを想像することができる。

生駒市内に残る石仏・石像を探してみませんか？